

# 柞乃杜

秩父神社社報  
柞乃杜(ははそのもり)

第 38 号

平成20年12月3日  
(大 祭)



奉祝  
天皇陛下御即位二十年



親の心得

一 赤子あかごには肌はだを離はなすな

一 幼子おきなごには手てを離はなすな

一 子供こどもには眼めを離はなすな

一 若者わかものには心こころを離はなすな

秩父神社

家庭心得

叱しかるにも程ほどがあり、可愛かわいがるにも程ほどがあり

勉強べんきょうさせるにも程ほどがあり、六むっかしき事ことなれども

御互おたがいに其程そのほどを得度えだきもの候そうろう

可愛かわいくばニツにしかりて三ツさんほめ

五ツごをしへてよき人ひととせよ

幡羅高等小学校「家庭心得」

(明治三十一年四月)より一部抜粋

社報38号において誤りがありましたので訂正し掲載します

## 解説

## 秩父神社 (37)

権福宣 甲田豊治

## ◆夜祭の神「妙見さま」のお姿

当社は、中世以降に北辰北斗の神格化とされる妙見信仰と習合する。

伝承によれば、承平元年(九三二)

平良文の軍勢が伯父の国香の軍勢と



引間花園妙見像

上野国府中花園村の染谷川での七日七夜にわたる合戦におよび、良文軍は苦戦を強いられ、わずか七騎までになってしまった。そこへ雲に乗った一人の童子が現れ、敵陣に剣の雨を降らせ、良文軍は勝利をおさめることができたと言う。勝利をもたらしたその童子を訪ね歩くと、近くの息災寺に祀られる妙見菩薩である事が確認され、良文はその妙見を守護神と崇め、本拠である武蔵野国大里郡藤田に勧請、その後良文軍は妙見信仰を奉じて秩父の地に土着する。

「秩父大宮妙見宮縁起」によれば、四条天皇の嘉禎元年(一二三三)秋九月に落雷があり、当社殿が焼失してしまふ。それを機に秩父真奈井原

に祀っていた妙見神を、当社が鎮座する柞の杜に合祀した結果、当社はこれより「秩父大宮妙見宮」となり、明治初年の神仏分離までの永い歴史の間、当社の妙見信仰は広く関東一円に崇敬を集めたのである。

その信仰を今に伝えるものとして、二種類の妙見神姿の版木と別のお姿の掛け軸がある。この妙見図について一考察を試みてみたいと思う。

一般的に妙見図(像)と言うと、二臂もしくは四臂で表現され、髪が長く、剣を持ち、北方の靈獣を意味する玄武(亀と蛇)の上に立つ菩薩像を連想するが、その他にも多種多様な妙見の姿形が全国に点在する。

当社に伝わる妙見さまをみると、写真①の版木のお姿は、縦68・5センチ 横26・5センチ厚さ4センチとかなり大きな版木で、桜材を使用している。お姿の上には「秩父神社」の文字と下方には「武蔵野国秩父郡大宮郷母巢杜鎮座」の文字がみえる。

写真②の版木のお姿は縦40センチ 横15センチ厚さ2センチ。材は同様に桜材を使用し、お姿の上に



写真①



写真②

は北辰の三星と北斗七星、「妙見星神」「秩父神社」の文字がみえる。顔の表情も異なり、左斜め下には「神主」の文字もみえる。

写真③は掛け軸のお姿で、この図像に関しては版木が伝わっていないので、とても貴重な資料である。妙見さま自体は縦34センチ 横15センチで、写真②と同様な配置であるが、顔の表情と北斗七星に付随する小さな星が特徴。また「妙見宮守護」の朱印はとても興味深いものがある。

どれも制作年代と作者に関する記述がないため、詳細が解らないのが残念である。

この三つの妙見神の姿で、他のお姿の例には無く共通して印象的なのが、背景から左右に伸びている枝葉である。向って右側の葉は黒く、反対に左側の枝葉は白い、陰陽の配置が窺え、しかも榊のような枝にも見える。

何故、妙見の姿に陰陽の枝葉が…と考えたとき、ふと思ひ浮かんだのが夜祭の斎場であるお旅所の亀ノ子石の配置であった。玄武の石像の上に立つ妙見のお姿は、そのまま亀の

子石に据えられた妙見の大幣。陰陽の枝葉は大幣の両脇に配される日月万燈と行列の先頭を行く大榊がそれに重なり合う。

更にこの妙見のお姿には、翌日斎行される蚕糸祭・養蚕との結びつきも連想される。

以前学研から出版された週刊神社紀行第11号「諏訪大社」に掲載されていた「養蚕守護神画像」衣襲明(びんぎょう)の姿が重なって見えてくる。秩父は古くから養蚕の盛んな地であり、合わせて諏訪の信仰も多く残っている。二日の晩に斎行される諏訪渡神事は秩父妙見神事の中では重要な宵宮の神事である。

斎場祭が終わると、大榊の枝葉は参拝客が競い合って持ち帰り、養蚕を営んでいる人はその枝葉を使い、蚕種(卵)を掃き立てるのだと言う。

このように、いくつかの点の一つの線となつて、当社に伝わる妙見神姿は、まさに秩父と言う風土の中から育まれた妙見さまのお姿であると同時に、この秩父夜祭自体を体現しているものと私には思えてならないのである。



写真③

## 破壊から創造へ——武甲山の修景を考える

宮司 藺田 稔

今上陛下の御即位二十年という慶祝すべき今年も師走の月を迎え、突然の金融不安やら未曾有の世界不況が取り沙汰されるなかで、ともかくも地元年来の篤い崇敬を賜わる当社の例大祭を順調に迎えられることは、大前に仕える者として殊のほか有難いことです。しかも今回の祭礼を期して、この「秩父夜祭」を世界無形文化遺産の登録へと果敢に挑戦しようとして立ち上がった郷土愛に燃える関係各位の熱意と気概に深甚の敬意を表します。

もとより登録の実現にたどり着くには打開すべき幾多の難事を覚悟することになりましょうが、その高く掲げる理想に向かつてのたゆまぬ熱意と努力の結集こそが、直面する経済不況を撥ね返しつつ、おのずから秩父地域活性化を飛躍的に推進せしめることになると思えます。

○ またそのためにも、一方では今後あらゆる手を尽くして関係要路に働きかけることが当然必要ではありますが、他方では同時に世界の文化遺産にふさわしく先人たちの遺した祭礼文化の有形、無形の充実をはかる地域ぐるみの自助努力こそ肝要ではないか。

その一つが、まずはかくいう当社自身、秩父地域総鎮守の名に恥じぬだけの一層の社頭整備と氏子崇敬者の篤

い期待に応えるべき真摯な社頭奉仕であり、また関係当局と地元住民との協力のもとで現に進められている都市計画や市街地改良でもあります。

だが、もうひとつ「秩父夜祭」本来の姿を何とか取り戻すのに是非とも避け得ないことは、ほかならぬ神奈備「武甲山」の修景という課題であります。

○ さて学問と実践との必要上から、全国の数ある祭礼のうち地域文化の核を成す注目すべき数事例を総合的に採訪してきました。年来の経験を踏まえての一般論を申しますと、おおむね健全で充実した魅力のあふれる祭礼文化には、およそ三つの要素が一体となって働き合っていると実感しています。それらは、まず分析用語で申しますと、土地に根ざしたコスモロジーとシンボリズム、それにパフォーマンスの三要素であります。

第一の要素は、古来の神話的な風土性を帯びた水利景観の物語的世界であり、第二の要素は、その物語に関連する歴史的な関連施設であり、第三の要素は、その物語を定期的に再現する神事祭礼そのものの反復表現の営みにほかなりません。

規模の大小を問わず、総じて郷土色豊かな地域文化を体現し、地元住民がこぞって参加するほどの勢威ある祭礼行事には、こうした三つの要件が相まってこそその実力を発揮するということなのです。

○ 本稿では、最初にあげた要件の神話的風土のコスモス世界に関連する秩父



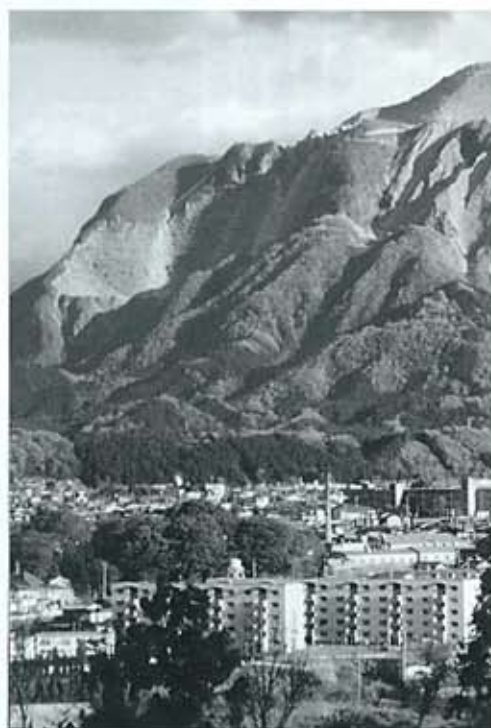
の水利景観にとつて、まさにその拠点を成す「武甲山」の課題と提言を概略申し述べます。

実は、この課題については本社報の22号(平成12年12月)に「武甲山を見据える一ふるさと再生の原点」と題してすでに話題に供したことがあるのですが、時あたかも「世界文化遺産」への挑戦という機会に取って再度とりあげる次第です。

加えて数年来提唱されてきた「秩父まるごと博物館」構想が地元有識者を中心に具体化しつつあるなかで、世界各地のおもに中山間地域に興りつつある環境ぐるみの地方活性化運動(エコミュージアム)に連なる意義からすると、その面からも秩父地域での武甲山の存在はまさしくそのシンボリックな位置にあると言わねばなりません。

それだけに、広くは荒川水系の一角を担う水分(水源)の神奈備(神体山)として遠く古代から「知々夫ヶ嶽」とも「妙見山」とも盆地住民に崇められ、当社や今宮社をはじめ周辺一帯の神社や多くの観音霊場での祭祀や信心の対象であった武甲山を、今のまま破壊の姿に晒しつづけることは、なんとしても正さねばなりません。

そこで、この破壊の現状を新たな創造の営みに発想を大転換するにはどうしたらよいか。それには、現在も地元産業のかなめとして地元住民の生活を支えているセメント産業や石灰工業はそのまま採掘を続けながら、まずは武甲山全体の将来像を見据えたグランドデザインを描いた上での、いわば「創造的採掘」に価値転



換を図ることではないでしょうか。そのためには、今すぐにでも全国的にデザインコンペを企画して、実現性のある武甲山の全体的修景に踏み出すことが喫緊の課題です。現代に問われている地方の持続的開発には、景観工学のいう生活空間における文化的に質の高い造景や修景をも含むのです。今動き始めた「秩父まるごと博物館」には、早晩そのコアとなる拠点施設が必要ですが、私見では、武甲山麓の広大な丘陵地帯に、既存の素晴らしい兵庫県立淡路景観園芸学校をモデルにした研究教育施設を誘致して、武甲山の修景に取り組んでほしいと思っています。

#### 【表紙解説】

この度の表紙絵画は、秩父郡小鹿野町下小鹿野に在住の小菅光夫画伯の作品「秩父夜祭」を掲載させて頂きました。

小菅先生は昭和二十五年小鹿野町に生まれ、昭和四十五年に武蔵野美術短期大学を卒業。五十二年「主体展」初出品で佳作作家となり、「農民シリーズ」・「地芝居シリーズ」・「合角ダムシリーズ」・「小鹿野歌舞伎シリーズ」等を次々と発表。特に故郷小鹿野と秩父地域の伝統文化芸能(歌舞伎)や神事などを題材にした絵画や版画作品など展開し、また更には、下小鹿野に鎮座する小鹿神社(通称・紫陽花神社)の復興にも精力的に活動されています。

現在先生は、主体美術協会々員・秩父美術協会会員であり、この度の社報の表紙を飾った絵画をはじめ「祭りシリーズ」として十一月二十九日から十二月二十四日まで秩父市上宮地にある武蔵屋本店2Fギャラリーにて個展が開催されております。是非御覧下さい。



### 氏子青年会報告

#### ◆最優秀氏子青年会表彰受賞

氏子青年会会長 丸岡庸一郎



去る八月九日、東京都内のグランドプリンスホテル赤坂において開催されました第四十六回全国氏子青年協議会定期大会におきまして、秩父神社氏子青年会が永年の功績により最も栄誉ある最優秀氏子青年会表彰を受けることができました。

長鈴木建志氏の優秀氏子青年表彰に続き、大変光栄なことと感謝と感激の気持ち一杯です。

当会は平成二年四月に、秩父神社を中心に文化的な秩父のマチ造りを推進する志の下、全国氏子青年協議会綱領の精神に基づき、清く、明るく、美しい社会の建設に努め、地域の繁栄と調和に寄与することを目的とし、会員数およそ六百名で設立されました。

設立以来、秩父神社の年間祭事助勤はもとより境内清掃、視察研修旅行、夏・冬祭り勉強会、記念事業、定時総会、会員相互の親睦会等、幾多の事業を展開してまいりました。

今年も十月に郷土芸能大会をはじめ各種催しもの等を行う『お宮と親子のつどい』柞の杜フェスティバルを開催し、

秩父神社を中心とした地域の人の賑わいの場を創出致しました。



この度の表彰において、会を代表させていただき、表彰状と記念楯を受け取り、大変緊張致しましたが、これまでを築きあげてこられた諸先輩方に深く感謝するとともに多くの会員とこの喜びを分かちあいたいと思います。



当会は来年初創立二十周年を迎えます。会の歴史も振り返りながら、後世に継承し、秩父

神社をお守りしながら、会のさらなる活性化を目指します。そのためにも今回の受賞が大きな力になることと思えます。

原嶋実行委員長のもと、二十周年を盛大に迎えたいと思えますので、皆様方今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願い致します。



### 秩父宮会推薦図書

(株)秩父宮会会長 井上 久

#### 『皇族に生まれてⅡ』

#### — 秩父宮談話集 —

秩父宮兩殿下のご成婚八十年を祝い、記念の書籍として刊行された本書は、昭和二十二年から二十三年にかけて出版された『御殿場清話』並びに『英米生活の思い出』を底本として、新たに資料編を加え編纂されています。

口絵には、秩父宮殿下が自ら撮影された貴重な御写真の中から、写真家の土門拳氏が厳選した十二枚が掲載され、資料的な価値を高めています。

戦後、未曾有の状況下で、国の未来を信じ親しく国民に語りかけられているご様子が伺い知れ、今日でも読む者に深い感動を与えて下さいます。是非とも多くの皆様にご一読戴きたい良書としてご推薦申し上げます。



《渡辺出版 定価四七二五円》

◆宮司ACRPMニラ会議に出席



議の第七回大会に出席、「アジアにおける平和の創造」をテーマの四日間の国際会議に参加して無事帰国しました。

会議はアジア最古の創立というサント・トマス大学で始まり、主に由緒あるマニラホテルを会場に開催され、全体会議と五つのサブテーマ、安全保障と紛争解決、人権と平和教育、共通価値と共同体造り、持続的開発と社会正義、過去の癒しと未来の構築の各部会に分かれての討議が成され、最終的に大会宣言を以て閉幕しました。

去る十月十六日から二十二日にかけて園田宮司はフイリピンに渡航、首都マニラで開催されたアジア宗教者平和会議

者や子供たちへの平和教育だとのことでした。国内でも頻発する殺人や自殺など、人心の荒廃に対処する生命倫理の教化に神社界の役目は大きいと実感したとのことでした。

◆秩父神社社號標建立

国道一四〇号線と二九九号線の交わる秩父市上野町明石の交差点に巨大な当社社號標が完成し、去る九月三日除幕式が斎行されました。この社號標の建立には、秩父地域の経営者団体「秩父経済懇話会」(中原恒雄会長・会員五十名)の定例懇談会(例会)が六百回を迎え、又、会が発足して六十年を迎えることを記念して建てられました。

更に、この社號標の土地に関しては、同会長である中原恒雄様が会長職を務める三原産業株式会社からの寄贈によるものであります。社號標には、宮司が染筆した「日本三大曳山祭」「秩父夜祭」「秩父神社」「辰巳参道」の文字が高さ五メートルの白御影石に刻まれ、秩父を訪れる方々を迎える新しい道しるべが誕生致しました。



ふくろう 梟だより



◆吉兆護符初夢宝船

この度、秩父神社吉兆護符初夢宝船を奉製致しました。一月二日の晩に、このお札を枕の下に忍ばせて、当社社殿彫刻でも知られる宝船の帆にした「獲」に悪夢を食べてもらい、すばらしい夢だけに、ご覧になり、実り多き年になり申すことをお祈り申し上げます。



◆秩父神社妙見講

- 自 平成二十年 九月 至 平成二十年十一月
- 九月 七日 小鹿野講
- 九月 十三日 荒川妙見講
- 九月 十三日 忠講元外七十四名
- 九月 十三日 中村講
- 高橋信一郎講元外三百三十九名
- 九月 十六日 上町講
- 松本眞一講元外二百五名
- 十月 五日 上宮地講
- 今井奎吾講元外百九十四名
- 十月 二十五日 東町妙見講
- 三友直彦講元外九十七名

- 十一月七日 番場講
- 宮野前方也講元外百三名
- 十一月十四日 野坂講
- 新井永保講元外百九十四名

本年より東町妙見講、三友直彦様が新に講元に就任されました。どうぞ宜しくお願い致します。

◆柞乃社前結婚式報告

- 秩父市中村町 久保 和也・直美様
- 秩父市東町 中村 文治・純子様
- 秩父市中村町 山根 隆義・遊子様
- 秩父市大野原 亀田 悟史・佳子様
- 秩父市上宮地町 関根 洸・尚美様
- 東京都昭島市 山本 隆彦・朝美様
- 秩父市上町 若林 輝雄・忍様
- 長瀬町野上下郷 林 秀昭・久美子様
- 東京都国分寺市 越 隼人・幸代様
- 秩父市大野原 関根 啓一・千代様
- 秩父市桜木町 黒澤 守・知里様
- 東京都世田谷区 彦久保雅史・康恵様
- 横瀬町横瀬 武藤 弘明・麻里様
- 東京都豊島区 浅見 勲・朋恵様
- 秩父市宮側町 市川 雅亮・美里様
- 長瀬町長瀬 村田 隆夫・瑞穂様
- 横瀬町横瀬 浅見 聡・小夜子様
- 小栗野町下小栗野 宮下匡文・加奈枝様
- 群馬県前橋市 根岸 一明・朋子様
- 秩父市宮側町 池田正人・あかね様
- 未永く幸せなご家庭をお築き頂きますようお祈り致します。



市内上野町 豊田 弘氏撮影

### 挑戦 秩父夜祭 世界無形文化遺産登録

この度、秩父市は「秩父夜祭」(秩父夜祭の屋台行事と神楽)を、国連教育・科学・文化機構(ユネスコ)の世界無形文化遺産に登録することを目指して提出資料などの準備を始めました。すでに秩父夜祭は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、また、この夏には文化庁によるユネスコの無形文化遺産の代表一覧リストへの記載候補にも選ばれております。



### 遷宮で結ぶ人の輪 心の輪 第六十二回神宮式年遷宮



■本年、当社例祭である秩父夜祭のユネスコ世界無形文化遺産登録を目指し、ここに柞乃杜第38号をお届け致します。

■来年の干支は己丑年です。十二支の丑に関連して、当社の社殿彫刻にも、本殿北面の脇障子に表現される「許由と果父」の中に牛の姿が見えます。許由は、帝堯から帝位を譲ることを聞かされて「何と汚らわしい事を聞いたのだ」と潁水という川の水で耳を洗っているところへ、牛に水を飲ませに来た果父は汚れた水を牛に飲ませることができないと引き返す場面を表現しています。

■この許由と果父は、高潔な隠者として古くから伝えられており、北辰乃鼻同様に、当社ご本殿の奥の聖域をこの二人の賢者も威厳をもって護っているように感じてなりません。



※本報の用紙は再生マツト紙を使用しています

平成二十年(二〇〇八)十二月三日  
編集 秩父神社社務所  
発行 秩父神社社務所  
〒366-0004 埼玉県秩父市番場町一三  
TEL (0494) 221-0262  
FAX (0494) 224-1596  
印刷所 有限会社 拙文社印刷所  
〒366-0004 秩父市東町二七一八

### がんばれ受験生 「北辰の鼻」号運転開始

この秋、十月二十五日より西武鉄道株式会社は、池袋、飯能、西武秩父の区間に当社社殿彫刻「北辰の鼻」をデザインしたヘッドマーク付きの電車「がんばれ受験生「北辰の鼻」号」の運転を開始しました。

当社の御祭神である八意思兼命は、知恵の神様として信仰され、また本殿北面中央の彫刻に施される北辰の鼻は、妙見信仰にふさわしく頭だけ反転して北辰北斗の星座を見つめる独特の姿から、古く知恵のシンボルとして御守や絵馬に施されており、受験シーズンに



は市内、県内はもとより遠方からも来社され、合格祈願・学業成就祈願は年々増えています。

十一月二十四日には、当社と西武鉄道株式会社との合同企画で、西武池袋駅発特急レッドアロー号乗車による「学業成就祈願祭」が斎行されました。

### 秩父繭を神宮に奉獻



この度、ちちぶ農協養蚕部会(宮崎豊二部会長)の養蚕農家が、埼玉ブランドで秩父地域だけで生産される繭「いろいろり」を、伊勢神宮に奉獻し、あわせて内宮・外宮を当社宮司と一緒に正式参拝致しました。

秩父では、古くから養蚕が盛んにおこなわれ、当社の例祭期間中の十二月四日に斎行される蚕糸祭は、秩父地域の養蚕農家とその年に生産した繭を大神様に奉獻し一年間の恵みに感謝するとても大切な神事であります。大祭期間中は拝殿前に、奉獻繭が展示されます。是非一度、秩父銘産の素晴らしい繭を御覧下さい。

### 編集後記